

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 I・II・III 】
2 実施対象者	取手市立戸頭小学校 1年88名(3クラス),2年76名(3クラス),3年91名(3クラス) 4年89名(3クラス),5年90名(3クラス),6年97名(3クラス)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(道徳, 学級活動) 2 行事名() 3 その他() (2) 地域における活動 1 イベント名() 2 その他()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スポーツアスリートとの交流を通して自分自身の生活を振り返り、「障がい」を正しく理解するとともに目標や希望をもって努力し生きることには価値を見出すことができる。 ・グループワークや礼法の授業、グローバルマナーとおもてなしの心についての講演等を通して、他者を理解し思いやりの心をもって接することの大切さや心地よさが分かり、実践しようとする。
5 取組内容	<p>(1) 国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を活用しての授業(4～6年生全9クラス/担当 教務主任) ※1時間ずつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① パラリンピックってなんだろう? ② パラリンピックスポーツにはどのようなものがあるか? <p>(2) 障がい者スポーツアスリートを招いての講演会(4～6年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 講師：日本パラ陸上競技連盟副理事長 花岡 伸和さん (車いすマラソン2004年アテネパラリンピック6位入賞, 2012年ロンドンパラリンピック5位入賞) ※2時間 <p>ア 講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご自身のキャリア(これまでの人生, 今後の目標や夢等) ・車いす陸上についての解説 ・競技用車いす体験(代表児童各学年1名ずつ) ・質問コーナー <p>イ 会食(4年代表児童6名とともに給食)</p> <p>ウ 事後学習 全員「お礼の手紙」を書く</p>



- ② 講師：東洋大学社会学部社会福祉学科3年 山口 凌河さん
 (2017年視覚障がい者スポーツ「ゴールボール」アジア大会日本代表
 銅メダル獲得, 2020年東京パラリンピック日本代表強化指定選手,
 取手市立藤代中学校出身)他 協力者3名 ※2時間
- ア 事前学習 全員「障がい者に対する自分の思い」を書く
 イ 講演
- ・ご自身のキャリア(これまでの人生, 今後の目標や夢等)
 - ・ゴールボールについての解説
 - ・実演及びゴールボール体験(代表児童各学級3名ずつ,
 投げる練習, 試合形式, 山口さんにチャレンジ等)
 - ・質問コーナー
- ウ 会食(6年教室にて児童とともに給食)
 エ 事後学習 全員「障がい者に対する自分の思い」と山口さんへの
 メッセージを書く



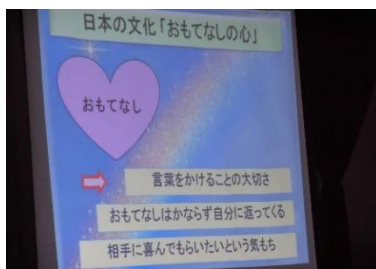
- (3) 共生社会に向けて他者理解の素地を養うための授業
 「人間関係形成を目的としたグループワーク」
 (6年生3クラス) ※1時間ずつ

講師：茨城大学大学院教育研究科教授 正保 春彦先生
 内容 ・手合わせ ・人間知恵の輪 ・聖徳太子ゲーム
 ・おもちゃジェスチャー ・イスとりゲーム 他



- (4) 「グローバルマナーとおもてなしの心」をテーマとした講演会
 (1~3年生は60分, 4~6年は90分に分けての実施)
 講師：グローバルマナースプリングス代表(筑波大学客員教授,
 元日本航空先任客室乗務員) 江上 いずみ 先生

内容 ・CA時代の体験談 ・「おもてなし」とは
 ・相手を思いやった正しいマナーや作法
 (ノック・挨拶・礼・握手等の仕方, 言葉遣い等)



(5) 「礼法」の授業(1年生3クラス) ※1時間ずつ
 講師: 聖徳大学附属取手聖徳女子中学校・高等学校教諭
 井出 徹 先生
 内容 ・正しい姿勢(座る, 立つ) ・正しい礼の仕方 等



6 主な成果

(1) 障がい者スポーツアスリート2名を招き, 体験を交えた講演会を実施した結果, 「かわいそう」という障がい者に対する偏見が減った。また, 障がいがあっても健常者と同様に目標や夢をもち, 仲間や家族に支えられながら努力することに生きがいを感じていることを知り, その価値を理解するとともに自分も勇気をもったという児童が増えた。

※ 障がい者スポーツアスリートを招いての講演会②の実施前と実施後のアンケートより

(実施前) 「障がい者」についてどう思っていますか?			
4 「すごい」「前向き」	3 「普通の人と同じ」	2 「たいへんでかわいそう」	1 「よくわからない」
11%	16%	59%	14%

(実施後) 上記2と1で答えた児童のうち, 同質問に対し
 ・前向きですごい ・色々できて楽しそう ・普通の人と同じ
 ・人それぞれ生きがい(楽しみ方)がある ・普通に接したい
 等, 4,3の方に変容した児童が 76%

- (2) 視線や声、体を使って人とコミュニケーションをとったり、協力して課題をクリアしたりする「グループワーク」の授業を行うことで、他者を受け入れる喜びを感じ、クラスメイトとの人間関係を少し滑らかにすることができた。
- (3) 「グローバルマナーとおもてなしの心」をテーマとした講演会や礼法の授業を行うことで、笑顔の大切さや、おもてなし(思いやり)の言葉や態度は相手のためだけではなく、最後は自分に返ってくるものだということを知ることができた。

「マナーとおもてなしの心」について、印象に残っていることは？				
アイコンタクト	1つのミスで信用は0になる (100-1=0)	「礼」のしかた (分離礼/言葉の後に「礼」)	ドアのノックは 4回が正式	「笑顔」は1円も かからないおしゃれ
33%	18%	16%	9%	8%
物を手渡すときは目を見て一言	言葉遣い	飛行機で日本人客は挨拶が苦手	お客様へのサービス	思いやりと優しさ
7%	3%	2%	2%	2%

7 実践において工夫した点
(事業の特色)

- (1) オリンピックはメディアでの取り上げられ方も大きく、児童にとっても関心は高いが、本校では、児童の「相手を思いやる心」や「自己有用感」を育てることが課題として挙げられるため、「パラリンピックスポーツ」や「マナーやおもてなし」に注目させ、自分の生活や今後の生き方を考えるよい機会にしたいと考えた。
- (2) 各テーマに即した講師の先生をお招きし、話を聞くだけでなく、体験を交えながら理解を深められるように工夫した。

8 主な課題等

- (1) 講師の先生を招く際は、内容の事前打ち合わせを十分に行い、ねらいに合った学習ができるよう、配慮が必要である。
- (2) 学級数や児童数が多い場合には、対象学年を絞ったり学習形態を工夫したりして、確実に学習効果があがるような配慮が必要である。

9 来年度以降の実施予定

- (1) 第4学年の総合的な学習の時間のテーマに「福祉」を取り入れ、障がい者スポーツや障がい者福祉等について、引き続き体験を多く取り入れながら学んでいきたい。
- (2) 今年度関わってくださった講師の先生方には、来年度以降も継続してご協力していただき、さらに交流を深めながら2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて児童の積極的な関わりをつくるとともに、思いやりのある豊かな心の育成に努めていきたい。